

# NEAL-NETの概要

○日本、中国、韓国の3カ国は、荷主や物流事業者が各国の主要港におけるコンテナ物流情報をタイムリーかつ効率的に把握できるようにするため、日本のColins※など各国のコンテナ物流情報システムの情報を共有する「北東アジア物流情報サービスネットワーク(NEAL-NET)※」の構築について平成22年に合意し、平成26年8月からサービスを開始している。

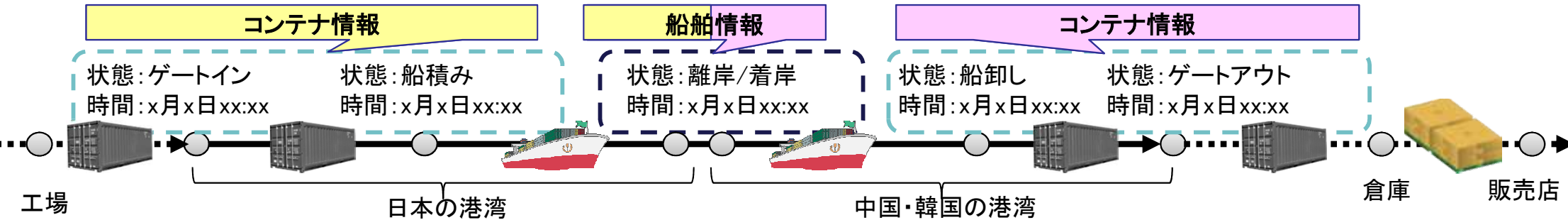
○NEAL-NETにより、①コンテナ船の到着・出発時刻、②コンテナの船積み・船卸し時刻、③コンテナのゲートイン・ゲートアウト時刻に関する情報が3国間で「見える化」された。

○NEAL-NETの利用により、①貨物の所在位置確認に係る業務の削減、②在庫量の削減、③遅延リスク等に対する迅速な対応等の効果が期待され、これらを通じて最終的に荷主等によるサプライチェーンマネジメントの向上に資するとされている。

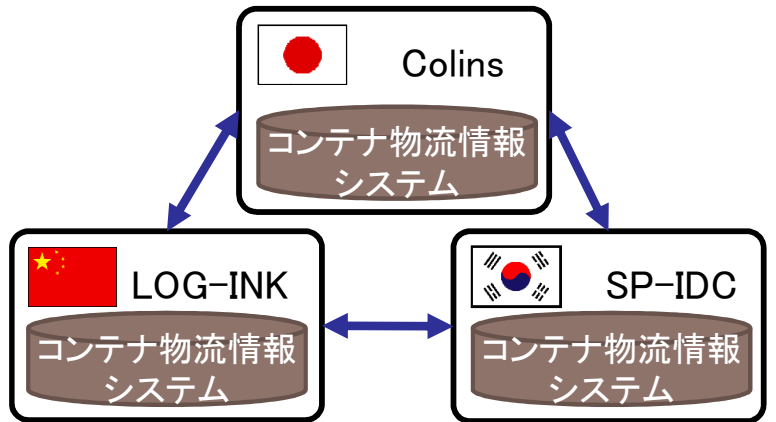
※Colins: Container Logistics information Service  
 ※NEAL-NET: Northeast Asia Logistics Information Service Network

## 物流情報の可視化のイメージ

<国内のコンテナ物流情報システム(Colins)から情報取得する部分> <NEAL-NETにより中国・韓国のコンテナ物流情報から取得する部分>



## NEAL-NETのイメージ



## NEAL-NETにより期待される効果

- ①貨物の所在位置確認に係る業務の削減  
 従来、現地代理店を通じ船社やターミナルオペレーター等へ個別に問い合わせる必要があったが、ウェブ画面からリアルタイム情報を取得できるようになり問合せ業務が容易に。
- ②在庫量の削減  
 従来、国際輸送中の貨物状況把握は難しく安全在庫量は経験則で判断していたが、輸送中の貨物が見える化されることで在庫として扱えるようになり、在庫量の削減が可能に。
- ③遅延リスクに対する迅速な対応  
 従来、国際輸送中の貨物状況把握は難しく、遅延が生じても認知に時間を要していたが、見える化されることで遅延や事故からの迅速な復旧が可能に。

# NEAL-NET対象港湾(2018年9月20日時点)

**【対象港湾】**※新規含む港数

- 日本: 7港
- 韓国: 5港
- 中国: 15港

**港名**: 新規対象港

